

玉野市立学校適正規模・適正配置検討委員会 第3回会議 会議録（要旨）

■日時 令和5年2月10日（金）15：00～17：00

■場所 産業振興ビル

■出席者 ○委員 15人

金川 舞貴子委員長 栗林 太一郎副委員長

中島 正人委員 木津 直美委員 森 幸絵委員 大内 雄一郎委員 西宇可奈子委員

兼松 勲委員 今井 克則委員 木村 俊一委員 諏訪 祐子委員 濱松 正江委員

三浦 康男委員 浅浪 康延委員 近藤 奈々委員

○事務局 5人

玉野市教育委員会教育長 妹尾 均 教育次長 小崎 隆 教育総務課長 山内 祐樹

学校教育課長 的場佳代 教育総務課課長補佐 清山 智保

○教育委員（オブザーバー） 2人

教育長職務代理者 太宰 実千代 委員 二宮 崇

■傍聴者 13人

1 開会

事務局：要綱第6条第2項により、委員の半数以上が出席しているため、会議として成立することを報告する。

2 議事（要綱第6条第1項に基づき、金川委員長が議長となる。）

事務局：議事に入る前に報告がある。

まず要望書について。令和5年2月1日に、市長、教育長、市議会議長、検討委員会委員長あてに、「学校適正規模・適正配置について、広く市民に説明し、市民の声をしっかり聴くことを求める要望書」が、「玉野の教育を考える会」から提出された。第1次分として2,333筆の署名が添えられている。

次に、パブリックコメントの意見について。1月中旬に新しい玉野市総合計画と行財政改革大綱のパブリックコメントが実施されたが、小中学校の適正規模化について様々な意見が寄せられている。今日の時点ではまだ公開できないため、次回会議で資料として示したい。

（1）第1回会議 会議録の確認

事務局：議事録は事前に内容を確認いただいている。改めてお気づきの点があればご指摘いただきたい。（特になし）

（2）今後の協議の進め方

事務局：今後の答申の策定に向けて、最終的にどのようなものを作るか、それに向けてどのような議論が必要かを共有したい。議論の道筋を付けすぎでしまわないよう、答申の構成案は大まかなものとし、参考に他市の答申の章立てをお示ししている。

（資料2、資料4に沿って説明）

委員長：行きつ戻りつになると思うが、議論を積み上げていけるような構成にし

てくれていると思う。こういった形で反映されて行くのだなど、少し頭に描きながら議論いただければと思う。

(3) 玉野市の教育について

事務局：(第2回会議 資料7～9に沿って説明)

委員1：中学校区一貫教育について、その目指すところは理解したが、具体的な取組や成果、課題にはどういったものがあるか。

事務局：例えば、それぞれどのような生徒指導をしているか、しっかり理解できるように、生徒指導部会という部会で中学校区の先生が揃って取組について話をしたり、課題を挙げたりしている。また、中学校区によっては、中学校の教員が小学校の数学、英語の授業に行くこともある。

それから、小学6年生が中学校の様子を体験するオープンスクールという取組があるが、これまでは2時間ほどで少し学校の様子を知る程度だったが、さらに踏み込んで中学校の生活が分かるように、1日かけて、実際に授業を受けて、給食を食べて、部活動の様子を見てというようなことを、小学校と中学校が連携して取り組んでいる。

東兎中学校区と荘内中学校区で、未来の学校づくりのモデルとして昨年度今年度といろいろ取り組んでいる。副委員長に、成果と課題というところも含めて、補足で何かあればお願いしたい。

副委員長：大きかったのは小中の先生が情報交換をする機会が増えたことで、教職員の意識が、小学校の役割はこれ、中学校の役割はこれというのではなくて、9年間で子どもたちを育てていく、力を付けさせる、学力もそうだし、人間力・キャリア教育についても、同じ目指す生徒像というゴールへ向けて、ベクトル合わせができたことが一番大きい。

そのために年に何回か合同の研修会をしたり、お互いの授業を見に行く回数をちょっと増やしたり、先ほど話に出たオープンスクールで中学校を1日体験したりなどで、小学校高学年段階で子どもたちが中学校を意識するようになってきた。このあたりが大きな成果と思う。課題もたくさんあるので、今後そういった課題も改善しながら、効果を検証していきたいと考えている。

事務局：中学校区一貫教育の柱は学力向上とキャリア教育と話をしているが、小学校と中学校の9年間で、キャリア教育をどう進めるか小中で相談をして、小学校では地域の方から色々な職業について聞こう、中学校の3年間で更にこういうことをしようなど、系統立てたキャリア教育を進めるであるとか、学力向上については、各教科、どういう力をどこで身につけてというところを確認しながら、授業の進め方やルールなども小中が互いに知って、進学時にスムーズに中学校生活を送れるようにという制度かと思う。

委員2：(9年間の教育という意味では義務教育学校も同様と思うが) 中学校区一貫教育にして、義務教育学校としなかった理由は何か。

事務局：義務教育学校が制度化されてからあまり経っていない。もっと検証して、課題やどのような教育であるかをしっかり確認して理解したうえでないと。大きいことなので、検討すべき課題もあるかと思うので、まずは小中連携を図って、中学校区で系

統立てた、一貫した教育に取り組んでいる。

現在、義務教育学校は県内や全国で少しずつ出てきているが、まだ研究ということになるかと思う。

委員3：先日玉野市の移住のパンフレットを見たら、玉野市の教育はとても充実しているようなことを書いてあったが、他市とか他県から来られる方に、他市他県とは違う玉野市独自の教育の成果が出ているということを教えてほしい。

事務局：比較をしたことがなく、明確にここがということはなかなか伝えることはできないが、先ほどの説明の中であったように、中学校区一貫教育をしっかりと進めることで、将来を見据えて地域で育てていく体制や、様々な関係機関が連携しながら支援や指導を行っていることが挙げられると思う。

例えば、玉野教育サポートセンターには適応指導教室、教育支援室、育成センターの3つの機能があり、それぞれ学校だけではなかなか支援や指導ができないところを関係機関と連携を図りながら、保護者も含めてしっかり支援も指導も行っている。そういう意味では、個々に応じた支援体制を整えて、大切に育てていると考えている。

委員長：かなり特徴的な、力を入れて取り組んでいきたいことを説明いただいた。おそらく、ここで目指そうとしている教育を実現するために、何が良いか、どのような環境が必要かというところで、議論を進めていくことになると思う。

縦の見通しと横の連携という、充実した教育環境を整えていこうとしていることはとても良く分かって、その方針に則って議論を進めていきたいと思うが、これは一つの手段だと思うので、この手段を通して子どもたちにどのような力をより育みたいのか、その点で課題などあれば補足してほしい。

事務局：よく言われている、激動する社会、大きく変化する時代の中で生き抜く力、学校の中でそういった力を育むために、まずは自ら学びに向かう力、学校の勉強に限らず、将来自分が社会に出て、大人になっても同じく学んでいこうという、そういう力。それから、これから社会に出て働いていくうえで必要な知識や技能、更には、激動の社会の中で生きていくために、いろいろな状況に対応できるような思考力や、自ら考えて、どうあるべきか、どうすべきなのかという判断力、それを今度は外にしっかりと伝える、そういった表現力。そういった資質能力をしっかりと育てていきたい、そのための教育を本市でしっかりと進めていきたい。

いろいろな体験活動などもそうだが、子どもたちが主体的に取り組もうとする姿勢、それから、自分の考えがどうなのかを考えるときに、いろいろな人の意見を聞いて、多様な考え方がしっかりと学べる、いま学校教育でいう協働的な学び、そういったところを大切にしていきたいと思っている。

教育長：合わせて、いま岡山県は夢育（ゆめいく）に非常に力を入れている。子どもたちが夢を持って、目標を持って育っていくことに取り組んでいる。本市も全く同じ考えで、子どもたちが夢を持って、そして目標を持って大人になってほしいと常々考えて、いろいろ取組をしているところだ。

委員長：今の時代に求められている教育のキーワードが、ふんだんに盛り込まれていたかと思う。おそらく今後議論していく中でも、学びに向かう力とか判断力、協働的な学び、夢、志とかいうところのキーワードが出てくるかと思う。

大学では、「これどう考えてるの?」「もっと違う考えあるんじゃないの?」と、ある意味詰めて行く。2回くらい赤を入れると「自分はここでいいと思ってるんだからいいじゃないですか」とキレ始める学生もいる。

ある意味辛抱強さであったり、知的な好奇心であったりといった課題も大学生を見ていて感じるところで、世界は広いな、わくわくするな、もっと出てみようという意識をどうすれば育てられるだろうというところがあって、きっとそういった部分を小さな段階から育てられたら、というところなのかなと大学生の姿に重ね合わせながら理解をしたところだ。

今のような話を踏まえて、いろいろな意見を聞きながら、次の議論に生かしていただければと思う。

(4) アンケートの分析について

事務局：まだ完全なものではなく、申し訳ございません。

例えば8ページ「小学校の1学年あたりの学級数は何学級が望ましいか」という設問だが、これに加えてなぜその選択肢を選んだかという設問もあって、本当はそこを細かく分析していかないといけないが、まだデータを下ごしらえした段階だ。

例えば「1学級」の場合、「一人ひとりに目が届く」ことを求めている人が多いが、そういったことが見て取れるものをまた改めてお示ししたい。

早めにお伝えしておかなければならないのが、8ページ下のグラフで、大規模校の保護者は「3学級以上が良い」とした方が70%以上いるが、この理由を細かく見ていくと、(今の児童生徒数で)今以上に学級数を増やすことによって1学級あたりの人数を少なくしてほしい、要は少人数学級を求めるがゆえにこの回答を選んでいるというものが、割と数多くあった。

したがって、単純に大規模校の保護者は1学年3学級以上の大規模を望むのだなとは捉えられないデータになっている。また、「複式」学級を「複数」学級と勘違いをしているものも結構な数があり、そういった注釈は加えていく必要があると考えている。8ページ、9ページは注釈が必要と考えている。

それ以降は、ほぼ額面どおり受け取って良いと思う。個々の考察も加えたものを完成形として改めてお示ししたい。(資料3に沿って説明)

次に本日配布した資料5だが、この資料は、地域の方が回答されたアンケートのうち、幼稚園、保育園、認定こども園を経由して回収したものを、未就学児の保護者分として集計したものだ。それ以外のオンライン回答や各公民館経由で回収したものは地域一般としている。地域一般にも未就学児の保護者は含まれると思うが、このように分けて集計した。(資料5に沿って説明)

委員長：このアンケートに加えて、委員の皆さんにはそれぞれの規模の学校に訪問していただいて、その一端を見て、教職員からも少し話を聞かれたということで、感じる場所もあったのではないかと思います。

また、前回の議論まで丁寧意見拾い上げていくことを確認し、就学前の保護者を抽出したデータを今回新たに付け加えてもらっている。それぞれの地区でまだ情報をよく知らないという人も巻き込んで、知っていただいて、考えていただいて、意見を拾ってくるということも大事にしていこうと確認したところなの

で、いろいろ難しかったこともあるかと思うが、それぞれの地区で見聞きしたことなどをこの場で共有しながら議論を進めて行けたらと思う。

たくさん材料がこの数か月の間にあったかと思うので、できればいろんな意見を聞きながら考えを深めていく、玉野の目指す教育を、我々大人が姿として示していこうというところかと思う。

委員4：膨大な資料が届いて、一応は目を通してはいるが、まだまだ一人で読み込んで理解するには難しいところがあると思う。

また、この場でさあ話をしましょうとか、質問、意見のある人は挙手をお願いしますと言われても、なかなか発言しづらいというのが第1回目、第2回目の会議に参加して感じるころではある。

できれば少し、まず周りの方とグループワークのような形で話をしたうえで意見を出せるようにすると、議論も進みやすいのではないかと思うがどうか。

委員3：賛成です。

委員長：話しやすい空気は大事と思う。(協議全体の)最初の頃なので試みてみましょうか。

委員5：3か所くらいで。

(グループ討議)

委員長：1グループずつ出てきた意見、観点を紹介いただいて、(時間的に)少しずつなら意見交換できるかなと思う。

グループ1：(委員5)せっかく中学校を残しても選んでももらえない。これは本当に切実な問題だ。

今後の中学校のあり方、小学校のあり方ということで話したことを紹介すると、中学校は例えば1学年3クラスずつでいいのであれば、2つの学校で、その時に荘内中も宇野中も無くして、玉野に西と東の中学校を作って、人数もだいたい均等にしておいて、そこを拠点に後は小学校をどうしていくかを考えてはどうかと。

玉野市のどこに住んでいても、その学校にスクールバスで通って、自転車や徒歩の選択肢は残しつつ、6kmとか4kmとかいう考え方は全くなしに変えていって、玉野全体のいろんなところに住んでいただいて、そこから子どもたちが安心して通学できて、勉強することができるような、いまの教育委員会のいろんな論点と少し違うかもしれないが、最初からそういうふうなところから、考えていった方がよいのではないかと。

(委員6)いま中学校がピンチという話があったが、これから20年、30年先の玉野市の人口を考えると、小学校も怪しい。検討委員会でも次回、次々回あたりで20年、30年後の形を話すと思うが、そこを見据えた主軸をしっかりと決めたいうえで、どんどんこの会議で取り組んでいかないと、アンケート結果でこうだよねとやっていたら決まらないのではないかと。

仮に中学校を東西作るとして、そこに小学校も入れて小中一貫校にするとか、そういう何かをみんなで話し合っ、決めていくような委員会にしたいと思っている。

委員長：西と東に1校ずつ新しく作っていく感じで、どこかを残すとか、くっつけようではなくて、新しい空気を出しつつということですね。

委員5：荘内中学校も老朽化していつかは使えなくなるという、それをどう考えるかだ。

委員長：加えてスクールバス。6 km とか 4 km という国の基準ではなく、ここの地理的な状況とか条件を考えて..

委員 5：玉野の基準を作れば良い。

委員長：ですよね。柔軟に考えていく。通学的手段も多様に認めて、このあたりがたぶん、配置と具体的な距離と手段のところでは反映される意見かと思う。

 主軸を決めて、それを基準にしたとき具体でどうしていくかという話になるかなと思う。なかなか切羽詰まった切実な状況を話していただいた。

グループ 2：(委員 2) 我々の班は、今回視察に行った小学校のを中心に話をした。最初に訪問したのは田井小学校、1 学年 2 クラス。次に後閑小学校で全校生徒 17 名。そしてとても多い荘内小学校、最後に日比小学校で 1 学年 1 クラスだった。

 生徒と先生とに分けて話をすると、生徒の方は、まず田井小学校に行った際、私の地区の学校に比べて、各学年 2 クラスあるだけでもすごく多いという感じを受けた。支援学級が 5 クラスあって、そういう意味ではすごく良いなと感じた。

 その後後閑小に行ったが、1 学年 2 クラスの学校から 17 名しかいない学校に行って授業風景を見たときに、正直すごく寂しい気持ちになった。だが最後に校長から、生徒一人ひとりがすごく仲が良く、親切で、それが毎年新しい子どもが入ってくる度に引き継がれるという話を聞いたときに、すごく良い面もあるのだなと感じた。私は、一概に少ないところを多いところにくっつけるというのは正直どうなのかなと感じた。地域の方もすごく協力的で、運動会などもしっかり参加し、準備の時から手伝ってくれるという話も聞いた。

 そこから荘内小学校へ行って、すごい衝撃だった。ちょうど休み時間で、運動場にすごい数の小学生がいて、正直圧倒された。駆け足で全クラスを回って、校長先生に話を聞いて、多すぎるのもどうなのかなというのが私の正直なところで、少ないところを多いところに（くっつける）というよりも、多いところを少ないところに振り分けるくらいの感覚が私は良いのかなと正直感じたところだ。

 最後日比小学校で、私の地区の学校と一緒に 1 学年 1 クラスだが、やはり小学校によって授業の進め方（が違う）というか、6 年生は常にパソコンを立ち上げていて、何か分からないことがあればすぐにパソコンで調べるということをしていたが、私の地区の学校ではそこまでパソコンを活用しておらず、玉野市内でもっと先進的な方向に進むのであれば、今の段階でも統一できることはたくさんあるのではないかなと感じた。

 生徒のことに限らず、多い少ない両方で良い面も悪い面もあるので、私が最初に感じた「少ないから寂しい」というのは、自分もちょっと間違っただけの感覚を受けたかなと感じたのが正直なところなので、子どもたちにとって本当に良い方法を見つけていきたいと強く思った。

 先生の方だが、先生が少ない、例えば 1 学年 1 クラスの学校だと、先生方が何かで欠員したときに、やはりどうしてもその穴埋めをする先生がなかなか充てられないという現実もある。逆に荘内小学校でいうと、たくさんの先生がいて、教えるクラスを変えるような試みをしていることを聞いて、そういった面では、クラス数が多いということは先生たちにとってメリットがあって、例えば有給休暇なども、今日は休みたいという日に気軽に休む、こういった先生の精神的な面での健康を考え

ると、やはり多少クラス数があって、先生がいないと、先生の心の健康などを保てないのかな、それが子どもたちの教育に何か差し支えがあるのかなというところも一つ感じた。

子どもたちのことを一番に考えないといけないが、先生のそういった面も考えていく必要もあるのかなという話になった。

委員長：改めていろんな規模を見て考えが変わることがあったかもしれない。新しい気づきを共有していただいたし、教育を充実させようと思ったときの持続可能な学校の先生たちのありようにも着眼点を持ってもらえたというところで、次回からの議論に反映してもらえればと思う。

グループ3：(委員7) これから小学校に上がっていく地域の方の話が聞けたという話があって、入学するのは1クラスの小学校の予定だが、アットホームでいいという思いはあるけれども、やはり将来を見据えて、これから子どもが減ってくることを考えると、統合も必要になってくるのかなという話があった。ただ、そうなるときでもやはり十分な説明がすごく必要だな、安心して議論を尽くしたうえでの、十分な説明があつての統廃合を望みますという声が聞かれた。そして、どこに住んでいても同じような教育が受けられるのがいいなという話も出た。

それと、コミュニティの方は、今まで本当に子どもたちにも支えてもらったんだ、子どもたちと地域と一緒に過ごすことがすごく多かったけれども、統廃合のために地域との繋がりが薄くなるとは考えずに、一緒になるのであれば、そうなった状態でコミュニティがどのような役割が果たせるのか、子どもたちをどう地域に取り込めるのか、そちらの議論の方も合わせてしていく必要があるのではないかという話が出た。

先ほどの中学校区一貫教育の説明では、小学校中学校の9年間と、その前の就学前の教育も繋がっているという話があったが、例えば小学校の1年生の先生と年長の担任と一緒にカリキュラムを組んで、就学前の園の先生が小学校の授業を見に行ったり、逆に小学校の先生が園に来て授業、保育を見たり、6年間と3年間の9年間だけではなく、生まれてからずっと玉野の教育は繋がっていて、そこは誇れるところだなという話が出た。この中で多様性を認める教育が大事になってくるのではないかという話が出た。

委員長：同じ玉野に住んでいればどこにいても良いという、最初のグループと一緒にかもしれませんね。あとは地域からも、繋がりが薄くなると考えるのではなくて、その地域の良さを今後の学校教育のあり方としても考えないといけないし、地域からも活性化しながらというような視点でもお話いただいたと思う。そのあたりも、もしかしたら付帯意見のあたりで反映できることかもしれない。やはり玉野として大事にしたい教育、一貫であったり、中長期的視点で育てることを踏まえた教育のあり方であったりとか、そのあたりも少し反映できるかなと思う。

今日の時点で全てをまとめることはできないが、次に方針を決めて行くにあたって、今まで出てきた意見を観点別にしっかりまとめて、そのうえで委員会としてどこをより強調して出していくのかという根拠付けをしながら、大きな方針と具体的方策についてまとめていきたいと思う。

また紙にして見ていくと、また意見が変わっていったり、新たに付け加えたいこ

ととか、軽重というのが付いてきたりすると思うので、またそれを叩き台にしながら議論を進めて行ければいいかなと思う。

3 閉会

事務局：急遽こういうグループ討議という形を取り入れたが、次回以降も必要に応じて皆さんのご意見を取り入れながら協議の仕方を考えていきたいと思っている。